

# Mon Mara



Numéro262 Association Franco-Japonaise de Nara 奈良日仏協会 MAI-JUIN 2014 5 - 6月合併号

# 創立20周年記念式典・講演会・パーティ(5/11奈良女子大学にて) 奈良日仏協会の"成人式!" ——各界からの祝福も

創立20周年を迎えた奈良日仏協会の記念 式典・講演会が、5月11日(日)午後2時から奈 良女子大学の記念館(国重要文化財)において 開催されました。(写真右)

当協会・野島正興副会長の司会で式典は開始 され、主催者を代表し三野博司会長の開会あい さつ、奈良県知事(及川国際課長代読)と山下 真・生駒市長の祝辞、来賓紹介と続きました。

次いで記念講演会として、C.-H. ブロソー在 京都フランス総領事による「日本におけるフラ



ンス文化外交の90年」(フランス語、通訳:菊地歌子関西大学教授)、三野会長の Power Point による 「フランス人作家たちの見た日本と奈良」、およびジャメ副会長による周到に準備された「夏目漱石の 時代の豊かな日仏交流」(フランス語、通訳:森井理事)という日仏文化交流3題の講演が行われました。

(写真中右:講演者の三人:左からジャメ副会長、三野会長、ブロソー総領事 ↓)

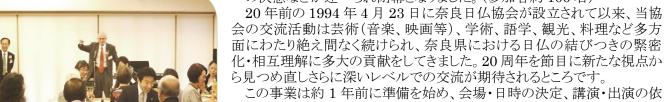
そのあとは音楽鑑賞の部になり、ピアニスト三木康子会員による深い哲学的洞察を込めた独創的な曲 と一般になじみの深い曲の取り合わせによるピアノ演奏。聴衆のみなさんも 満喫されたご様子でした。(参加者は約160名)

締めくくりは南隣にある「ラウンジ」に会場を変えて、祝賀パーティ が華やかに開幕。招待者、現会員、一般客のみならず設立当時の方々も 多数出席あり、会場のあちこちで懐かしい思い出話などに花が咲きまし た。更に興趣を添えたのは、梨里香さんのシャンソンと土井淳さんのキ ーボードによる伴奏、また会員有志から提供された景品の当たるお楽し み「福引」などのアトラクションでした。(写真左下:乾杯の音頭はジャメ氏)

最後に協会の濱事務局長による閉会のことばがあり、文化交流は国際親善・

平和の基本、準備と運営に尽力された全スタッフへの感謝、協会活動のさらなる発展

への決意などが述べられ閉幕となりました。(参加者約100名)



この事業は約1年前に準備を始め、会場・日時の決定、講演・出演の依 頼や周知活動を進めるほか、細部にわたる進行計画を立て、当日を迎えま した。さいわい初夏の爽やかな晴天に恵まれ、多数の来場者を迎え、盛会 裏かつ無事に終えることができ、主催者として安堵感に浸れた次第です。 みなさまのご協力に心から感謝致します。 ◆次ページにも記念講演の要 点及び行事に参加の方々から寄せられた「声」を掲載。



# <<基調講演のアウトライン>>

① シャルランリ・ブロソー在京都フランス総領事「日本におけるフランス文化外交の90年」

創立 20 周年のお慶びを申し上げる。二十歳は若さの象徴で、これから花開くように貴協会のご発展を期待したい。 フランスの外交政策は、文化外交に特徴がある。それはルネサンス期からの古い伝統を持ち、国家(今は外務省)が主 導的な役割を果たし、価値観・思想を含むフランス語の普及、という3点が重要である。

仏-日外交関係は 1858 年に遡るが、文化外交と言えるものはちょうど 90 年前の 1924 年、東京に日仏会館がクローデ ル駐日大使によって開設されたことが端緒。3年後には京都に日仏学館が設けられ、フランス語学と文化の普及・交流 拠点となった。その後、大戦による中断はあったが両国は文化を通じた交流を深め、'60~70年代に黄金期を迎えた。 さらに 1997 年にはパリに、日仏会館と同様の組織、日本文化会館が開設された。将来フランス文化の紹介・拡大に新 たなヴィジョンを持つには、日本の文化組織との相互協助関係、文化面のネットワーク構築が重要であろう。

< 2 > MAI-JUIN 2014

#### ② 三野博司 当協会会長「フランス人作家たちの見た日本と奈良」

私は「フランスから見た日本」の主題のもとに、実際の来日体験に基づき個性的なテクストを書き残したフランス人作家たちを論じてきた。本日は5人の作家を例にとり、彼らが見た「奈良」の姿を、紹介したい。(1)ポール・クローデル: 1921年~27年、駐日大使として東京に赴任し、本務のかたわら、日本各地(奈良,3度)を訪れ、日本文化を精力的に探求。(2)アンドレ・マルロー: 1931年以来4度来日。奈良との関連では消失した法隆寺の壁画について触れるなど、ジャポニスム(洗練された江戸時代の文化)よりも、大陸からの影響を留めている奈良時代の仏教美術を高く評価。(3)ミシェル・ビュトール: 何度か来日し、94年、書き溜めた文章を集めて『フランスから見た日本』としてまとめた。2002年には、奈良日仏協会と奈良女子大仏文教室の主催により講演会を開催。(4)ジャン=フィリップ・トゥーサン: 2003年、奈良日仏協会が招いて講演会を開催した。紋切り型の伝統文化紹介ではなく、大衆的なスペクタクルなど異世界体験を紹介。(5)エリック・ファーユ: 2012年後半に、日本各地を精力的に旅行。小説『Nagasaki』をめぐって奈良女子大学で講演を行い、《ならどっと.FM》にも出演。この滞日体験に基づいて、今年2月に『フクシマを超えて一日本滞在日記』を刊行した。

#### ③ オリヴィエ・ジャメ、当協会副会長「夏目漱石の時代の豊かな日仏交流」

夏目漱石が生き、著作活動をしたのは、1867年から1916年。この時期は、日仏両国が画期的変貌と躍進を経験した時代であり、双方にとって歴史に残る重要な時代と言える。日本側からフランスに向けた交流について言えば、主として美術と庭園に関係した。これらは「ジャポニスム」と総称され、浮世絵と絵画・工芸、俳句と音楽、フランスに作られた日本庭園など代表的な事例が紹介された。他方、フランス側から日本へは、科学、工学、法律ないし経済の分野が主で、これを日本に導入、浸透させることだった。重要な事例の中から、日本で足跡を残した二人のフランス人一(1)技術者エミール・ベルタンによる日本国海軍の創設、(2)法律学者ギュスターヴ=エミール・ボワソナードによる日本の法制度の近代化と完成、についての紹介があった。

(各講演の記録は Mon Nara の奈良日仏協会創立 20 周年記念特別号に収録予定)

# 創立20周年記念行事参加者の感想

- ◆◇奈良日仏協会創立 20 周年記念行事に参加させていただきありがとうございました。1987 年から 2 年間の在 仏で妻とともにすっかり Francophile になってしまい、その後の生活スタイルや考え方に少なからず良い影響が ありました。あれから 27 年以上も経ち、薄れかけてきた記憶を蘇らせようと思っておりますので、またお仲間に入れていただければ幸いです。(西野正人・典子)
- ◆◇奈良日仏協会20周年記念祝賀会、盛会の内に無事終了おめでとうございます。三野新会長就任後初めての大会だっただけに、役員・会員一同でお互いに喜びあえたと思います。式典の各位の講演も良かったし、奈良女の記念館にふさわしい内容でした。三木康子さんによるドビュッシー他のピアノ演奏も素晴らしく、奈良女子大記念館の長い年月を経た品位にも感動致しました。祝賀パーティーは、和気あいあい、賑やかで大成功でした。生駒市長が三野先生の講演中のカミユの「不条理」に触れたのは楽しかったです。梨里香さんのアルトのシャンソンも良かったです。仏文学者・三野先生の手腕は凄いと思いました。(工藤順子)
- ◆◇存在感のある奈良女子大記念館の開け放たれた大きな窓から入る五月の爽やかな風と 水面の煌めきを想わせるピアノの美しい旋律。思い出は一枚の絵のように 鮮やかに記憶されています…。講演会では、さまざまな出来事を経て成長してきた奈良日仏協会の歴史を窺い知ることができました。ひとつひとつの繋がりによってかけがえのない現在が生まれ続けるように、フランス文化を皆で慈しむ心も繋がってゆく宝物なのだとおもいました。(高島 真貴子)
- ◆ Merci encore pour votre invitation, j'ai été heureux de vous revoir ainsi que d'autres personnes. Ce fut une très belle fête et vous pouvez être fier de votre association.

ご招待にあらためて感謝します。いろいろな人に再会できてうれしかったです。とてもみごとなお祝いの会でした。 奈良日仏協会のすばらしさが示されたと思います。 (元アリアンス・フランセーズ大阪館長・フレデリック・ダール)

- ◆◇見事な演出ぶりで感心しました。それと協会のチームワークが良いですね。懇親会も楽しませていただきました。奈良女の学生さんもとてもしっかりしていて楽しかったです。祝賀パーティーでは、私の本を福引の景品にしていただいて本当にありがとうございます。(大手前大学学長・柏木隆雄)
- ◆◇講演会、ピアノ演奏など多彩なプログラム企画や会の運営の準備に多くの時間を費やされたことと拝察します。お蔭さまで有意義で楽しい時間を持つことが出来ました。日仏協会様とは 2006 年 5 月に大安寺において、交流会(両協会より 90 名参加)を開催したことがあります。再びこの様な共催行事を開催し、奈良女子大のラウンジを埋め、交流会を開催できればと願っています。(奈良日独協会理事・林保之) (氏名敬称略)

Mon Nara

# MOI ET LE JAPON 私と日本

# | << 2>> | オリヴィエ ジャメさん ④

 $\mathsf{Q}\!-4$ 

Votre spécialité académique à votre école (ou l'université)?

先生が学校、特に大学で専攻された分野についてお伺いたしたく存じます。

Plutôt que de parler de « ma » spécialité académique, il serait plus exact de parler de « mes » spécialités académiques.

En France, une telle formation n'est pas exceptionnelle. Et cela permet d'ouvrir quantité d'horizons de toute nature. J'en demeure très reconnaissant au système universitaire qu'offre la République Française à ses citoyens et également à quantité d'étudiants étrangers.

Il suffit seulement d'avoir du goût pour les études, ce que Fukuzawa Yukichi, figure de proue de l'ère Meiji, appelait « Gakumon no susume ». Ce goût, je le dois à ma Famille, éprise d'études et de culture.

Mes spécialités sont triples:

- . Lettres et sciences humaines
- . Gestion des entreprises et administration (spécialité gestion des Ressources Humaines)
- . Diplôme et licence de langue japonaise, délivrés par l'INALCO à Paris (Langues O).

【概略訳】私の場合は専攻科目といっても一つではなくて、複数あるんですよ。フランスでは、このような専攻課程はよくあることです。お蔭で将来に多様な可能性が開けることもあります。私が今も感謝しているのは、国が市民だけでなく、沢山の外国学生にも享受可能な大学制度を有している事です。明治の先覚者・福沢諭吉の「学問のすすめ」の意識こそ肝要です。こうした嗜好は、学問と教養を深く愛していた私の家族から受け継いだものです。私の三つの専攻とは:文学・人文科学、企業経営管理(主として人的資源)、日本語資格と同教員免許(パリの国立東洋語学校交付)。(本稿のこれ以降の詳細は創立 20 周年記念特集号に掲載予定。)

# バスク紀行(その3)

坂本 成彦(顧問)

## <ビルバオ> 人口37万人 スペインバスク自治州、ビスカヤ県の州都

ビスケー湾に向かって開けたスペイン屈指の港湾都市。古くから周辺で 鉄鉱石が採掘出来ることもあって、鉄鋼・造船の町として栄えてきたが、今 や工業地域が再開発され、空港、鉄道、トラム、メトロなどインフラ投資が継 続され、第三次産業が卓越している。街からケーブルカーで結ばれている 山上公園からの眺めは、素晴らしく、昔、鉄鉱石を採取したという周囲の 山々はじめ、街の中心部が一望できる。レンガ色の屋根、白い壁、赤茶の 窓枠が美しい。

河川に面したかつてのドックや倉庫が再開発され、シンボル的な建物としてグッゲンハイム美術館(写真右下)、国際会議場、コンサートホール、展示場など観光の魅力的な景観がある。ネルビオン川には、17の橋が架けら

れているが、デザインとして突出したスビスリ橋(バスク語で白い橋)が写真スポット(写真上)。

中心部から下流へ30分ほど走ったところのビスカヤ橋は、あのエッフェルの弟子が設計して1893年に開通した世界最古の運搬橋で、大型船の運航を妨げず、巨大な橋梁を造ることもなく、水面から50mの橋桁からゴンドラを吊り下げ、160mの距離を2分かけて運ぶ仕組み。現在も生活の足として機能しており、24時間営業、一度に6台の自動車、300人を輸送できるとのこと。交通機関では、日本のICOCAのように、メトロ、トラム、バス、近郊鉄道、ケーブルカー、ビスカヤ橋など1枚のカードで利用できる。

世界遺産でもあるビスカヤ橋 (ゴンドラで車両も運べる橋) フランスのロシュフォールにも 同様の橋がある。





# フランス文学の庭から

名句の花束

三野博司

会長,奈良女子大学教授

Quand on voulut le détacher…, il tomba en poussière. (1) 引き離そうとすると白骨は粉々に砕けてしまった (ユゴー『ノートル・ダム・ド・パリ』1932年)

大学の同僚で奈良日仏協会会員である高岡尚子さんの編集により、『恋をする、とはどうい うことか?』(ひつじ書房)が刊行されました(写真右)。タイトルを見ただけで、昔の甘酸っぱい 思い出がよみがえってくる人もいるかもしれませんが、副題には「ジェンダーから考える こと ばと文学」とあります。じつは、この本は「ジェンダー言語文化学」の授業で用いる教科書とし て作られたものなのです。

高岡さん執筆によるジェンダー学入門というべき第1部「ジェンダーについて考える」は、ま さに簡潔にして要を得た教科書として書かれており、参考文献もたっぷりと紹介されています。 それを受けて、第2部では、日中米仏独、それぞれの文学の担当者が寄稿し、かなり自由な スタイルで、ジェンダー学的視点から「恋」を語っています。



私が書いた章は「美女と野獣 騎士と精霊」と表題があり、「恋をするのは人間同士とは限らない。物語の世界では、人 間と人間ならぬ異形の生き物との恋もまたうまれる」と始まります。人間界の恋を語るのは他の人たちにまかせて、私の方 では異類婚、あるいはそれに類する物語ばかりを取り上げました。それらを大きくふたつにわけて、ひとつは「人間である 女性と醜い獣とのあいだの恋」すなわち「美女と野獣」、もうひとつは「人間である男性と美しい女性に変身した自然の霊 とのあいだの恋」すなわち「騎士と精霊」の主題のもとにまとめています。古代ローマのアプレイウスに始まり、アンデルセ ンやグリムの童話、フーケーやムゼーウスのドイツ文学やキーツの英詩、谷崎潤一郎や木下順二、ドボルザークやドビュ ッシーのオペラ、さらには宮崎アニメやディズニーアニメにも軽く言及していますが、なかでももっとも多く取り上げたのは やはりフランス文学です。

「美女と野獣」の中心はコクトー『美女と野獣』であり、「騎士と精霊」のほうはジロドゥー『オンディーヌ』ですが、この二作 品はすでに「名句の花束」で取り上げました。今回は、その他の作品から名句を引きましょう。まず は、ヴィクトル・ユゴーの『ノートルダム・ド・パリ』から。

> わが国では、ディズニーアニメ『ノートルダムの鐘』(1996年)の原作といったほうがわかりやすい のかもしれません。アニメでは、教会の高みからパリを俯瞰する絵がきれいですが、物語のほうは 子ども向きに大幅に改変されています。

> 他方で、1998年には、フランス版ミュージカルがパリで上演されました。大ヒットして、世界的に も高く評価されました。アジア各国で喝采をあびたあと、2013年にようやく日本にもやってきました

が、残念なことにフランス語ではなく英語による上演だったようです。原語版 DVD は輸入盤で入手できます。Youtube で も見ることができます。

このミュージカルの音楽を担当したのは, Richard Cocciante リシャール・コッシアンテで、2002 年にはミュージカル Le Petit Prince『星の王子さま』 の音楽も担当しています。 こちらの DVD は、パリにあるサン=テグジュペリ権利継承者 事務所にオリヴィエ・ダゲ氏を訪ねていったときに、彼からもらったものです。よくできたミュージカルだと思いますが、日本 には紹介されていません。というわけで『星の王子さま』から先にコッシアンテの音楽になじんだ耳にとっては、『ノートル・ ダム・ド・パリ』の音楽は聞き慣れたものに感じられます。(以下次号)

# 96 90 00 00 00



#### 第33回 奈良日仏協会シネクラブ例会 (4/26) 報告

4月26日(土)の例会は、古典的な魅力と、公開後50年が過ぎた今あらためて発見できるような 斬新な魅力をそなえたプログラム『シェルブールの雨傘』(1964) のおかげか、三重日仏協会の田 中さんの参加もあり、にぎやかな集まりとなりました。何度目かの鑑賞の人も初めての人も、自分の 視点で率直にこの映画について語ってくれました。「メロドラマ」の物語形式にそって、映画ならで はの様々な魅力にあふれ、汲めども尽きせぬ豊かさをもつこの作品。互いの意見に刺激されるよう にして、個々の場面の魅力(とりわけラストの雪のシーン)を指摘したり、主人公の女性の生き方を 問うたり、当時のフランス社会のことやフレンチ・ミュージカルとアメリカン・ミュージカルの違いに触 れたり…。一方で、この作品は日本の伝統芸能である「能」との類似性を持つという含蓄に富んだ 意見がだされ、アメリカ映画との対比でいったん劣勢におかれた『シェルブールの雨傘』独自の魅

力の発見となりました。フレンチ・ミュージカル特集ならこの作品ははずせないという、パリのピエールさんからの推奨、仙 台アリアンス・フランセーズのシネクラブでもこの作品を取り上げたことがあるという寺本成彦さんからのメッセージ、遠く離 れたところからの応援の声に、大いに勇気づけられました。また、会場確保に尽力してくださる奈良シネクラブの上田さん と檜原さん、機材設営のために駆けつけてくださる会員友人の天野さん、たくさんの皆さんの協力が本当にありがたく感 じられます。(浅井直子)

# Mon Nara

## «『シェルブールの雨傘』を再び観て»

遥かに溯ること 50 年余り、日本が東京オリンピックで大わらわだった頃に「斬新な」カラー映画として登場、フランス語を始めたばかりの私にとっては憧れであり魅惑的だった異国の街角が鮮烈な記憶として残っています。今、字幕を離れて鑑賞すると「描写」と「会話」の進行が、かなり簡潔かつ駆け足の印象を受けました。全体の時間的制約もあり、個々の出来事が類型的で、人物の性格や動きなども象徴的で、図らずも日本の伝統的象徴劇の「能」に似た展開に驚きました。シテであるヒロイン、ワキである元カレ、ツレである夫と、少数の人物によるコンパクトな歌劇は、そもそも「能」が地謡などの伴奏によるミュージカルであることを考えれば、当然の類似と考えられます。中味的には「すれちがいドラマ」であって、それほど哲学的主張がある訳でなく、気楽に観られる作品でした。初めてこの映画を観て以来、シェルブールはあこがれの町で、私が初めてフランスに着いたとき、どこを差し置いても先に訪れたく思ったのは、シェルブールでした。(中浦東洋司/会員)



# 第34回 奈良日仏協会シネクラブ例会の案内

第34回 奈良日仏協会シネクラブ例会案内

◇日時 6月29日(日)13:30~17:00

◇会場 奈良市西部公民館 4 階第 2 講座室

◇プログラム 『愛のあしあと』 (Les Bien-Aimés, 2011年, 138分)

◇監督 クリストフ・オノレ

◇参加費会員 無料 /一般 300 円◇懇親会例会終了後「味楽座」にて

◇問い合わせ tel. 0743-74-0371 Nasai206@gmail.com(浅井)



「フレンチ・ミュージカル」特集の2作目は『愛のあしあと』です。2011年のカンヌ映画祭の特別招待作品として上映されました。パリ・プラハ・パリ・ロンドン・ニューヨーク・ランスと、目まぐるしく舞台を変えながら、「愛」を求めて彷徨する母娘2 代を描いた、恋愛大河ドラマです。恋する切ない気持や苦しい気持が登場人物たちの歌によって表現され、物語はテンポよく進んでいきます。何が起ころうとも、自分の人生をひたすら生き続ける女性マドレーヌ。演じるのは、フランス映画を代表する二人のタイプの異なる女優(娘時代・若妻時代をリュディヴィーヌ・サニエ、熟年時代をカトリーヌ・ドヌーヴ)。さらにはマドレーヌの娘ヴェラをドヌーヴの実の娘キアラ・マストロヤンニが演じ、実の母娘が映画でも母娘を演じています。様々な仕掛けがひそむこの作品。人を愛することの喜びと痛みに立ち合ってしばしば絶句してしまいますが、これがミュージカル映画で、音楽が時間と人生を運ぶ力を持つことが、切なくも感じられます。

【物語】かつてパリで娼婦をしていたマドレーヌは、チェコ出身の医師ヤロミルと結婚。しかし彼の浮気がきっかけで離婚し、娘と再びパリに戻り、優しく家庭的な夫と再婚して幸せな生活を送っていた。 ところが、再びパリにやってきたヤロミルとも密会を重ねるようになる。 時が流れて、マドレーヌの娘ヴェラは、恋人クレモンと一緒に滞在していたロンドンで、アメリカ出身のドラマーのヘンダーソンに出会い惹かれるが、彼は自分がゲイであることを告白する …。

## 

高島 真貴子(会員)

2014.3.20 (jeudi) Forte pluie. C'est dommage. Pourquoi est-ce qu'il va pleuvoir...!

びしょぬれになって辿り着くと、そこはガラス張りの喫茶店「なららカフェ」。窓の外には、雨に煙る五重の塔。パティスリー・カラクの岩崎シェフが丹精込めて作ってくださった、《フランスの伝統的なお菓子》二品をいただきました。ひとつはアルザス地方のお菓子《タルト・リンツァー》。アルザスの冷涼な土壌で採れるラズベリー・ジャムが、シナモンスパイスの香りの効いた生地に覆われていました。一口食べてその絶妙なバランスに驚き、シェフがお菓子をとても大切にされているのがわかりました。もうひとつは、ノルマンディー地方のお菓子《クルスタッド・オ・ポム》。中にリンゴが入っているパリパリしたタルトです。これも美味しくて、最初は「こんな大きなお菓子、食べきれない」と思ったのに、しっかり食べてしまいました。バックに流れるシャンソンには、初めての人同士も結びつける nostalgie (郷愁)がありました。最初は三野会長の挨拶からはじまりました。さすがです。お話面白くて、聴衆の心を捉えます。続いて仲井先生、岩崎シェフ、会員の向井佳代子さん(実はお菓子の先生)のお話に誘[いざな]われて、みんなで《フランス菓子の世界》へ行ってきました。

出席者からの感想を紹介しましょう。「普通では体験できない異空間のような場所とお話と美味しいお菓子に、心身共に充電することができました」「とっても素敵な場所で、現実からはなれた世界に浸れて、本当に楽しくて、ついついお喋りしすぎてしまいました」等々。普段はひとりひとりなのに、この日はみんなが、こんな世界にいっしょにいたんだな…と思います。

最後は仲井先生に Guillaume Apollinaire の詩《ミラボー橋》Le Pont Mirabeau を、ろうそくを灯して語っていただきました。これも、とてもお洒落で素敵でした。

# 第 118 回 「フランス・アラカルト」(5/22) 参加者報告

★フランス・アラカルトには初めて出席しました。フランス人によるフランス文化紹介は、私とは視点が違うもので、刺激になると共によい勉強になりました。次に私がフランスを訪れる際には、新たな見方ができるようになれば…と思います。ギター演奏は、心で受け止めて聴きました。次回も、また出席したいと考えています。(青山登美子)

★ロマネスク様式の教会のお話や、クラシックギターの演奏の中でも、最後にアンドレさんによるヴェルレーヌ作「月の光」の朗読が美しくて心が揺さぶられました。フランスで定着している俳句 Haikus のお話も面白かったです。

(佐々木幸代)

コンクの聖フォワ修道院正面入り口上部のタンパン⇒



★初夏の午後のひと時を、光のさしこむ明るいレストランで、文化講座と音楽と俳句という盛りだくさんな内容の会に参加し、本当に楽しかったです。最初は、アンドレ・アンジェイ先生による 11~12 世紀のロマネスク様式のお話。フランスの教会建築は、その圧倒的な美しさはもちろんのこと、文字の読めない人たちにとっては、キリスト教にまつわるいろいろなエピソードなどを教えてくれる大切な「本」のようなものだったとのこと。金谷幸三さんは、パリ国立高等音楽院ギター科の出身という経歴であるのに、とてもフランクで、すごいテクニックをさり気なく披露してくださいました。珍しい 11 弦のギターを身近で見ることができて、そのハープのような厳かな音色を聞くことができ、とても貴重な経験をしました。俳句の話をきっかけにアンドレ先生が、"なぜ日本でアダモの『雪が降る』が流行るのか?"というなぞ解きをされました。歌詞が俳句と同じ、5・7・5 のシラブルで出来ていて、偶然とはいえ日本人には受け入れやすい曲になっていたのだそうです。(薗田章恵)

★コンクのサント=フォワ修道院の正面入り口上部に配置されている大規模な石の彫刻(下段の向かって左半分は天国、右半分は地獄を表わしているという)は、日本の寺院等で見られる地獄絵巻と似ていると思いました。金谷さんの奏でるギターの音色は、時に甘く、時に切なく、うっとりとしました。11 弦ギターは教会音楽のような古典的な音色で、タイムスリップしたような感覚になりました。(中田由美子)

★このところフランスに行けば、町の中心にある壮麗なゴシック様式の大聖堂を訪ねる旅が続いていました。今年の夏は久しぶりに、中世の修道士や巡礼者たちの姿を想像しながら、鄙びた田舎にあるロマネスク様式の教会や修道院を訪れてみようと思います。お話とギター演奏には、そのように人を動かす不思議な力がありました。(浅井直子)

★10 数年も前のこと、コンクのサント=フォワ修道院が見たくて、パリから現地の観光案内所に電話して、ロデズから週 2 回バスの便があるのを知り、それを利用して行きました。その tympan=タンパンが、今日は大きな写真で解説されて、理解がいっそう深まりました。そして 11 弦ギターの深い余情をともなった音が、いにしえのリュートの音であると聞かされて、「ロランの歌」の時代へと導かれました。目と耳から中世へといざなう好企画だったと思います。(三野博司)

★ « J 'ai été très agréablement surpris par la gentillesse des organisateurs de l'événement "France à la Carte" et par l'engagement intellectuel de mes auditeurs. Je vais donc continuer de parler de cet événement en termes élogieux, car "France à la carte" a beaucoup de mérites pour dévoiler la culture et l'âme françaises. Les interactions entre moi, en tant que conférencier, et le public étaient chaleureuses. Je salue le dévouement de mes chers auditeurs de Nara et exprime mes remerciements pour avoir prêté l'oreille à mon exposé sur l'art roman , et également à ma récitation du poème "Claire de lune" de Paul Verlaine. J'espère que mes idées vous ont plu. Au revoir , et à bientôt, à vous tous qui êtes en rapport avec l'art français et la poésie française. »

和訳:《フランス・アラカルト》の参加者のみなさまの知性あふれる雰囲気に心地よく驚かされました。これからもこの行事を称賛し続けます。フランスの文化と魂を明かしてくれる長所があるからです。話し手である私と聴き手のみなさまとの間に暖かい交流がありました。奈良の愛すべきみなさんの熱意に敬意を表するとともに、私のロマネスク芸術の話、そしてヴェルレーヌの「月の光」の詩の朗読に耳を傾けてくださったことに、感謝申し上げます。願わくば私の解釈を気に入って下さり、フランスの芸術や詩に関わりを持つみなさまと、またお会いできますことを!(André Andjey Gruszewski アンドレ・アンジェイ・グルシェフスキ)

★スペインのイメージの強いギターでフランスのエスプリを表現するのは難しく、曲も少ないのですが、 11 弦では前半のお話にあったロマネスク様式のイメージに想いをはせる演奏ができました。皆様のフランスに対する愛情、教養を目の当たりにして、私自身またフランス語を勉強したいな、と思わせる楽しく刺激的なひとときでした。(金谷幸三) 金谷さんの 11 弦ギター➡





#### 〈〈シェフのフランス語修行〉〉

#### Bistro Le Nord 北田 浩久(法人会員)

フランス語を全く知らないままフランス料理の世界に飛び込んだ僕は、「アーベーセー」よりも先に料理用語としてのフランス語を学びました。はじめはとにかく単語の暗記です。材料や料理方法、数字、機材、ワイン、チーズ等。「なんとなく話せるようになったな」なんて勘違いのまま渡仏したのですが、当然通じません。到着したシャルルドゴール空港から、ちんぷんかんぷん???…でした。そして、現地ではまさに実戦形式でインプットしていくわけですが、料理用語が飛び交うレストランの厨房では、90%は理解してそれなりに話すので、スタッフ達には「そんなに難しい言葉を知っているのに、なぜ簡単な言葉(例えば「ペン」「犬」「空」)を知らないのか?」って、よく笑われてました。もうこうなったら文法なんてお構いなしです。片言のフランス語に英語や奈良弁をミックスして、必死に相手に伝え、言い間違いに気付き、人の言葉をまねしてみる。とにかく恥ずかしがらずに相手に伝える事の大切さを学びました。

例えば、「鴨肉」(filet de canard)、「筋」(nerf)、「固い」(dur)、「筋を取り除く」(dénerver)、「味付けする」 (assaisonner)、「フライペン」(poêle ポワルと発音)、「皮目」(peau)、「強火で手早く焼く」(saisir)などといった単語を並べて、「このフィレ・ド・カナールはネがデュールなので、デネルベしてアセゾネしてポワルでポーからセジールしてください」(本人訳)などと言っていました。これはもうほとんど日本語ですよね? でもこれで通じてしまうのです(厨房限定ですが)。言うまでもなく町に出たら通じないのですが、この厚かましさのおかげか、1年で少しは、ましに話せるようになりました。何事も基礎が大事ですね。あれから 20 年経った今でも、テレビの NHK フランス語講座を見てはリピートしています。 それでは皆様、今日も Bonne Journée!

## ≪フランス・アラカルトご案内≫

❖❖第119回❖❖

「フランス音楽と詩の華々」 <<シャンソンと詩の 朗読とピアノ名曲の午後>>

- ◆日時:6月25日(水) 13:30~15:30 (開場は13:00)
- ◆会場・会費・問い合わせ&申込先は、Mon Nara 本号に同封のチラシをご参照ください。
- ◆出演者の紹介

◎梨里香 (シャンソン): 同志社大学文学部卒業。パリ第Ⅳ大学 (ソルボンヌ) 留学。声楽を稲垣孝子氏、中村勢津子氏、ピアノを小林とし氏に師事。シャンソンを深緑夏代氏、出口美保氏、ヤスコ氏に師事。フランス語講師及びシャンソン講師 (奈良日仏協会等)を務める傍ら関西、関東のライヴハウス (ベコー、コンテ・ローゼ、巴里野郎、バルバラ等) にレギュラー出演。「シャンソンフォリー」(日本シャンソン協会主催)「ベコーコレクション」(シャンソニエ・ジルベール・ベコー主催)「フランス語で歌うシャンソン」(日本テレマン協会主催)等に出演。

◎今井恵理(ピアノと編曲):リヨン第二大学音楽学科卒業。読売新人演奏会、野葡萄の会 5th コンサート、日本ショパン協会東北支部主催新人演奏会、ならびにファミリーコンサート、 Les Rendez-Vous de Rochebonne(フランス)等出演。ソロ、アンサンブルのほか、近年は自作の曲による朗読とのコラボレーションにも活動の幅を広げている。ピアノを渋谷傳、渋谷清子、斉藤久子、G. Moutier の各氏に師事。林秀光氏の指導を受ける。

◎杉本和子(朗読):親和女子大学国文学科卒。在学中よりラジオ関西「電話リクエスト」のアシスタントをつとめる。卒業と同時に㈱サンテレビにアナウンサーとして入社、報道番組、料理番組、対談番組などを担当。退職後「音楽の祭日」の司会を機に活動を再開。FM千里パーソナリティや、「大谷玲子の会」をはじめ大阪国際交流センター「国際理解シンポジウム」、月清古曲保存会「地唄と語り」などの司会をつとめる。日本ライトハウスの音訳ボランティアとしても活動中。



ビストロ ルノール特製 そば粉の ガレット

## 「カンヌ映画祭 2014」報告

## ピエール・シルヴェストリ(会員)

今年のプログラム構成は、第7芸術である映画の活 力とその見事な多様性を実証する格調高いものでし た。とはいえ、陰鬱で生命力に欠ける作家的な映画 のパルムドール受賞は期待はずれでもありました。 一方で、オリヴィエ・アサイヤスの Sils Maria 、ベ ルトラン・ボネロの Saint Laurent 、ダルデンヌ兄 弟の Deux jours, une nuit といった、説得力をもっ た同時代的で非常に興味深い作品が、すべて受賞から外されたことも記しておきます。そして、素晴ら しい映画の受賞を強調しましょう。Map to The Stars (デヴィッド・クローネンバーグ監督のハリウッド世界への辛辣な批判)で崇高な役を演じたジュリア ン・ムーアの女優賞と信じがたいほど創造的なこ のシネアストの審査員賞です。今年のカンヌ参加監 督中最年長のJLG (83歳のジャン=リュック・ゴダ ール)の Adieu au langage「言葉との決別」(男と女 と一匹の犬が言葉の問題に立ち向かう)と、25歳に してすでにいくつもの長篇作品を撮っている最年少 のグザビエ・ドランの Mommy「モミー」(未亡人の 母親が精神障害を患った息子の保護を引き継ぐ) この二つの作品は、映画を真に愛する人々を驚嘆さ せました。フランス系スイス人の巨匠ゴダールとケ ベック人監督グザビエ・ドランは、たえまなく実験 し新しい形態を創造しています。

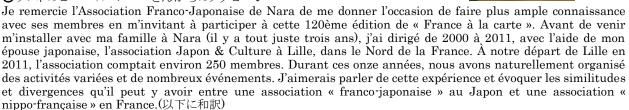


## ≪フランス・アラカルトご案内≫

- ❖❖第 120 回❖❖
- ◆日時:2014年7月22日(火)15時~17時
- ◆会費:会員 1000 円、/ 一般 1500 円 (ドリンク付き)
- ◆会場:「菜宴」(奈良市小西町 19 マリアテラスビル 2F Tel: 0742-26-0835 近鉄奈良駅南へすぐ)
- ◆問い合わせと申込み先: Nasai206@gmail.com

又は Tel & Fax:0743-74-0371(浅井)

◎ ゲストのピエール・レニエさんからのメッセージ



第 120 回「フランス・アラカルト」で奈良日仏協会の会員の方たちと交流する機会を与えてくださり、感謝いたします。家族とともに奈良に来る以前は(ちょうど 3 年前ですが)2000 年から 2011 年まで、妻といっしょに、北フランスのリールで「日本文化協会」を運営していました。私たちがリールを発った時には、約 250 人の会員がいました。11 年の間、様々な活動や数多くのイベントを行ってきました。こうした経験や日本の「仏日」協会とフランスの「日仏」協会との、類似点と相違点についてもお話ししたいです。

#### ≪理事会の報告≫

事務局

5月15日に開催された第2回理事会における議事の概要を報告します。 実行済み及び予告内容の詳細は本誌の関係記事をご覧ください。

出席者:三野、野島、濱、浅井、井田、仲井、中浦、中辻、樋口、藤村 および三木(監事、オブザーバー)

議題1. 創立20周年記念式典・講演会・祝賀パーティを振り返る

パーティの雰囲気は賑やかで良かったが、シャンソンの際の照明が明るすぎ。反省点がいくつか残ったが、全体としては大成功。収支も予算の範囲に収まる。周到な事前準備(特に三野会長の働き)と関係者の努力・チームワークの成果。外部参加者からの評価は高く、好意的。

## 議題2. 当面の行事・活動計画

1) フランス・アラカルト:5月22日(木)浅井理事担当(実施済み) 6月25日(水)仲井理事担当:「フランス音楽と詩の華々」〜シャン ソンと詩の朗読とピアノの名曲の午後。場所:生駒コミュニティセン ター文化ホール。出演者:梨里香(シャンソン)、今井恵理(ピアノ 演奏・編曲)、杉本和子(詩の朗読)。詳細は本誌記事に紹介。

議論:リハーサルの条件、生駒市との調整、危機管理への責任体制など、実施へ向けて今後詳細を詰める。

2) 会員名簿:最新状態に更新し、次号 Mon Nara に同封して配布する。

#### 議題 3. Mon Nara

- 1) 次号の予定:記念式典・講演会に関する記事に2ページを割く。
- 2) 20 周年特別号:全体構成/暫定目次、追加原稿、発行予定等を審議。

**議題4.その他** 他団体主催コンサートへの後援名義使用の承認。

## 会員通信⋉⋉⋉⋉

▼「7月1日から31日までフランスを旅します。フランス各地の友達の家を訪ねるのが楽しみです。行く先は、

Paris, Fontainebleau, Sarrebourg, Strasbourg, Colmar, Besançon, Arbois, Beaune, Troyes, Epernay, Reims, Montpellier, Carcassonne,

St. Pierre des Corps, ...です。」 (小寺順子)

会員どうしの消息などの交換 欄としてご利用ください。



- ◆当協会では会員を募集しております。お申込み、お問合せは下記事務局まで。
- ◆本誌への投稿、特に新鮮で多様な話題、ホットなフランス情報などを歓迎します。 誌面の都合で意味を極力変えずに表現を変えさせていただくことがあります。 会員通信欄もご活用ください。

締切日:次号は7月20日が原稿締切日です。

Mon Naramai-juin20145-6月合併号numéro262奈良日仏協会Association Franco-Japonaise de Nara

HP: http://www.afjn.jp E-mail: afjn\_info@kcn.jp FAX 0742-62-1741

〒630-8691 奈良中央郵便局 郵便私書箱第30号[郵便物のみ] ②発行責任者:三野博司